

平成27年度第2回

中小企業景況調査報告書

平成27年 7月～9月期 報告
平成27年 10月～12月期 予測

千葉県商工会連合会

中小企業景況調査報告書

平成27年7月～9月期

調査要領

1. 調査対象

(1)対象地域

11 商工会地域 大多喜町商工会、袖ヶ浦市商工会、旭市商工会、野田市関宿商工会、南房総市朝夷商工会、印西市商工会、大網白里市商工会、成田市東商工会、東庄町商工会、富津市商工会、長柄町商工会

(2)対象企業数 165 企業(11 商工会×15 企業)

(3)回答企業数 165 企業

2. 調査対象期間 平成27年7月～9月を対象とし、調査期間は平成27年8月22日～9月1日である。

3. 調査方法 商工会の経営指導員による訪問面接調査。

(1)産業別構成

業 種	回答企業数	構成比(%)
製 造 業	28	17.0
建 設 業	29	17.6
小 売 業	45	27.3
サービス業	63	38.2
合 計	165	100.0

(2) 業種別構成

① 建設業

業 種	回答企業数	構成比(%)
総合工事業	14	48.3
職別工事業	12	41.4
設備工事業	3	10.3
合 計	29	100.0

② 製造業

業 種	回答企業数	構成比(%)
食料品製造業	8	28.6
飲料・たばこ・飼料製造業	1	3.6
木材・木製品製造業(家具を除く)	2	7.1
家具・装備品製造業	1	3.6
パルプ・紙・紙加工品製造業	1	3.6
なめし革・同製品・毛皮製造業	2	3.6
金属製品製造業	4	14.3
はん用機械器具製造業	1	3.6
生産用機械器具製造業	1	3.6
業務用機械器具製造業	1	3.6
その他の製造業	6	21.4
合 計	28	100.0

③ 小売業

業 種	回答企業数	構成比(%)
各種商品小売業	1	2.2
織物・衣服・身の回り品小売業	6	13.3
飲食料品小売業	22	48.9
機械器具小売業	4	8.9
その他小売業	12	26.7
合 計	45	100.0

④ サービス業

業 種	回答企業数	構成比(%)
一般飲食店	21	33.3
宿泊業	2	3.2
運送業	3	4.8
自動車整備業	13	20.6
洗濯・理美容業	12	19.0
その他のサービス業	12	19.0
合 計	63	100.0

本報告書中の[DI 値]とあるのは、ディフュージョン・インデックス(景気動向指数)の略で、各調査項目についての増加(好転、上昇)企業割合から、減少(悪化、低下)企業割合を差し引いた値を示すものである。

I. 県下中小企業の景況

“小売、建設が大きく牽引。全業種で業況は改善”

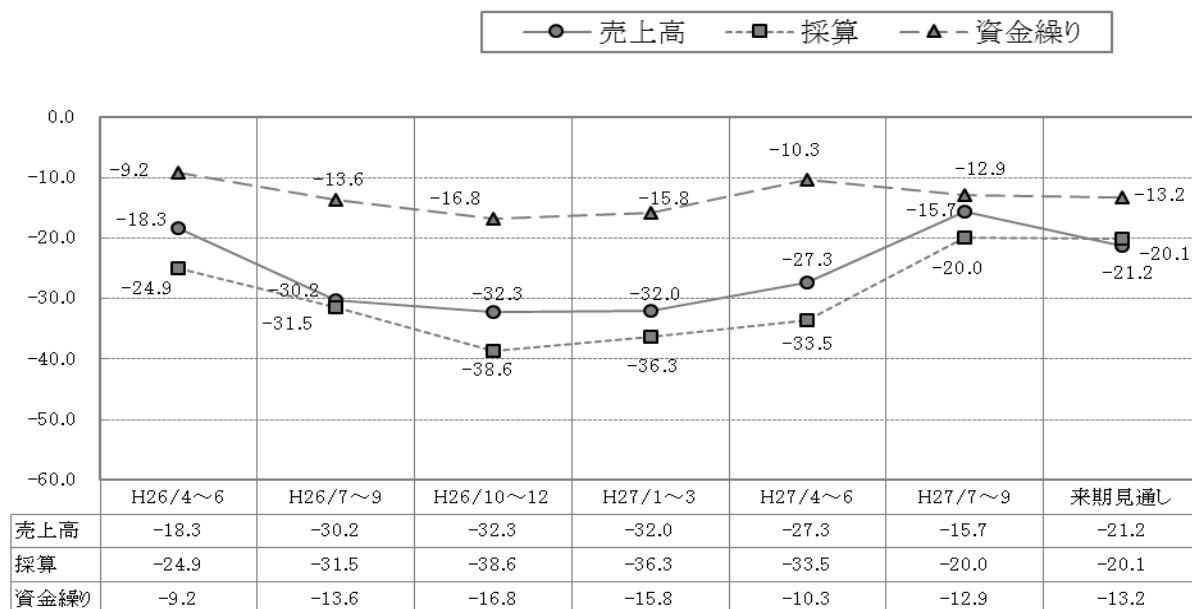
千葉県商工会地区の平成 27 年 7～9 月期中小企業景況調査結果によると、産業全体の景況感は[図 I-1]に示したとおり、今期売上高 DI 値は-15.7、前期（平成 27 年 4～6 月期、-27.3）比で 11.6 ポイント増、同採算 DI 値は-20.0、前期（-33.5）比で 13.5 ポイント増、同資金繰り DI 値は-12.9、前期（-10.3）比で 2.6 ポイント減と売上高、採算のマイナス幅は縮小しており、少しずつではあるが、景況感は改善している。

また、前年同期（平成 26 年 7～9 月期）調査と比較してみると、売上高 DI 値は、前年同期（-30.2）比で 14.5 ポイント増、採算 DI 値については、前年同期（-31.5）比で 11.5 ポイント増、資金繰り DI 値は、前年同期（-13.6）比で 0.7 ポイント増といずれもマイナス幅が縮小している。

今期は、夏のボーナス増加やプレミアム商品券、外国人観光客の増加等により小売業、サービス業は引き続き回復傾向に。建設業についても公共工事を中心に受注が回復している。製造業は 2 期連続で売上、採算、資金繰り DI 値が悪化していたが売上、採算においては改善している。

また、来期（平成 27 年 10～12 月期）については、小売業については継続して改善する見通しとなっているが、建設業については悪化する見通しで、全体としては、マイナスの見通しとなっている。














[図 I-1]全産業主要景況項目の推移 -前年同期比DI-



Ⅱ. 各産業の景況

1. 製造業の景況

“緩やかに改善、来期は横ばいの見通しに”

	今期の景況	来期の見通し	
売上高			 :DI 値 +30～
採算			 :DI 値 +10～+30
資金繰り			 :DI 値 +10～-10
総合			 :DI 値 -10～-30
			 :DI 値 -30～

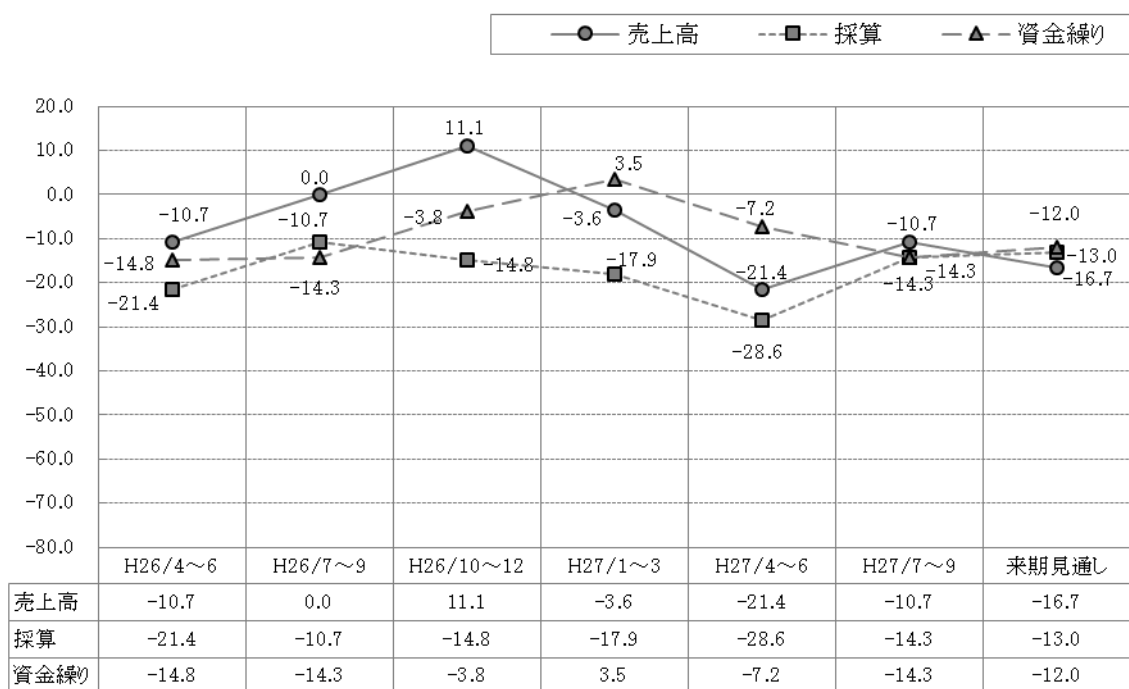
千葉県商工会地区における製造業の景況は、受注残・引合い数の減少が底を打ち、売上高 DI 値は-10.7 ポイント、前期と比べると 10.7 ポイント増加している。需要の停滞が経営上の大きな問題点であったが、設備操業度、受注量の減少幅が小さくなっており、改善傾向にある。また、原材料高騰や単価の低下・上昇難などによる収益構造の悪化等の状況は続いているものの、需要回復により、採算 DI 値は前期から 14.3 ポイント改善した。一方で、製品ニーズの変化を問題点とする事業者が増えている。

なお、資金繰り DI 値については 3 期連続で悪化している。

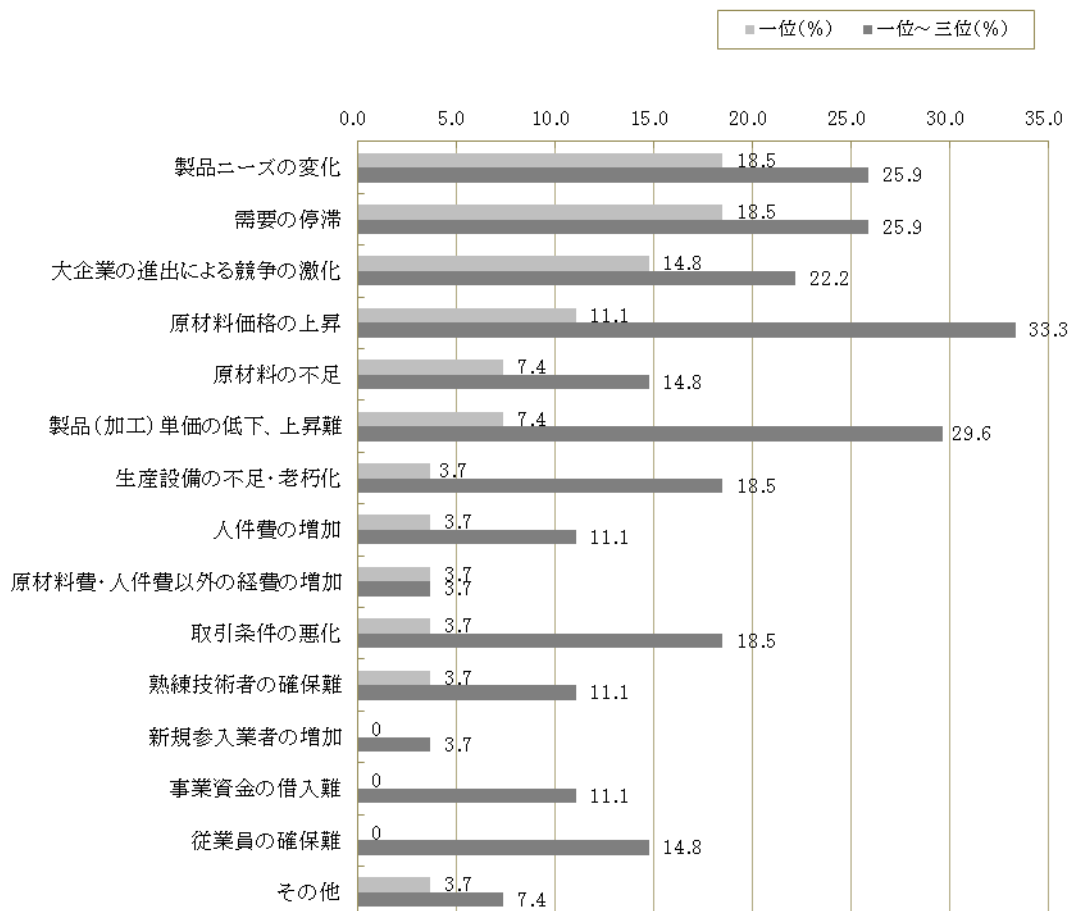
来期については、売上高 DI 値は、やや悪化の見通しとなっているものの全体的には横ばいの見通しになっている。中国経済の減速については、大企業と比べると限定的だが、先行きの不透明感は強まっている。

今期は新規設備投資については 3 社が実施。内訳は、工場建物、生産設備、付帯施設の導入が 1 社ずつとなっている。また、来期計画は 1 社が予定しており付帯施設の導入を予定している。

[図II-1] 製造業主要景況項目の推移 - 前年同期比DI -
















[図II-2] 製造業 経営上の問題点の状況



2. 建設業の景況

“売上高は引き続き改善も、先行きの不透明感は拭えず”

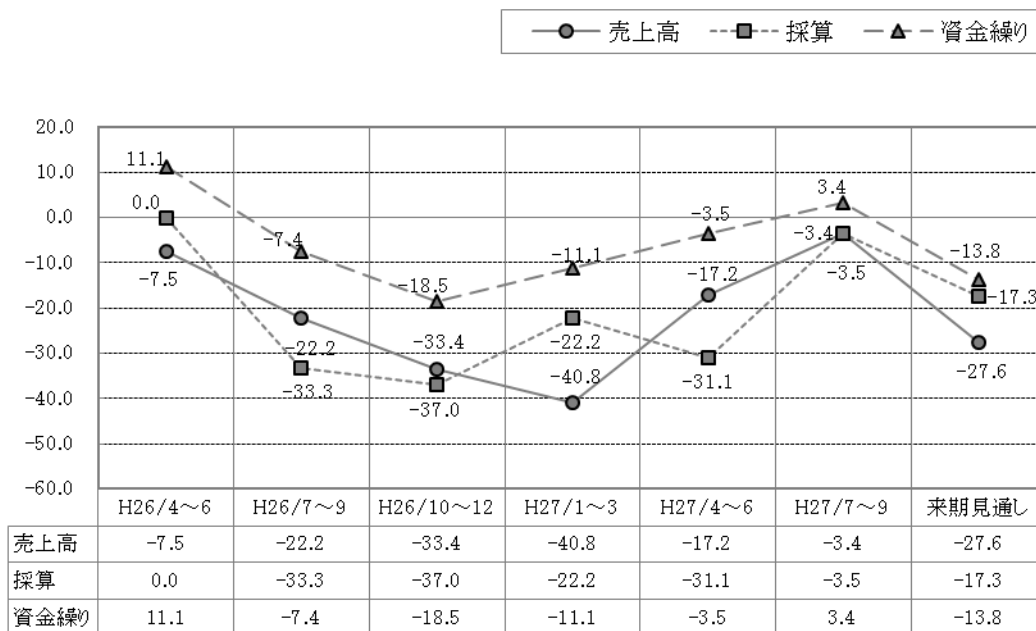
	今期の景況	来期の見通し	
売上高			 :DI 値 +30～
採算			 :DI 値 +10～+30
資金繰り			 :DI 値 +10～-10
総合			 :DI 値 -10～-30
			 :DI 値 -30～

千葉県商工会地区における建設業の景況は、前期に続き公共工事関連中心に受注額は増加している。このため、売上高 DI 値は-3.4、前期 (-17.2) 比で 13.8 ポイントマイナス幅が縮小。また、請負単価の低下、上昇難を問題点にあげる事業者は若干減少しており、収益構造の改善が見られ、採算 DI 値については-3.5 で、前期 (-31.1) 比で 27.6 ポイントマイナス幅が縮小している。資金繰り DI 値は 3.4 で、前期 (-3.5) 比で 6.9 ポイント上昇している。今期については、引き続き受注が増加しており、全体的に業況は改善しているものの、業種や業態によるバラツキが確認できる。

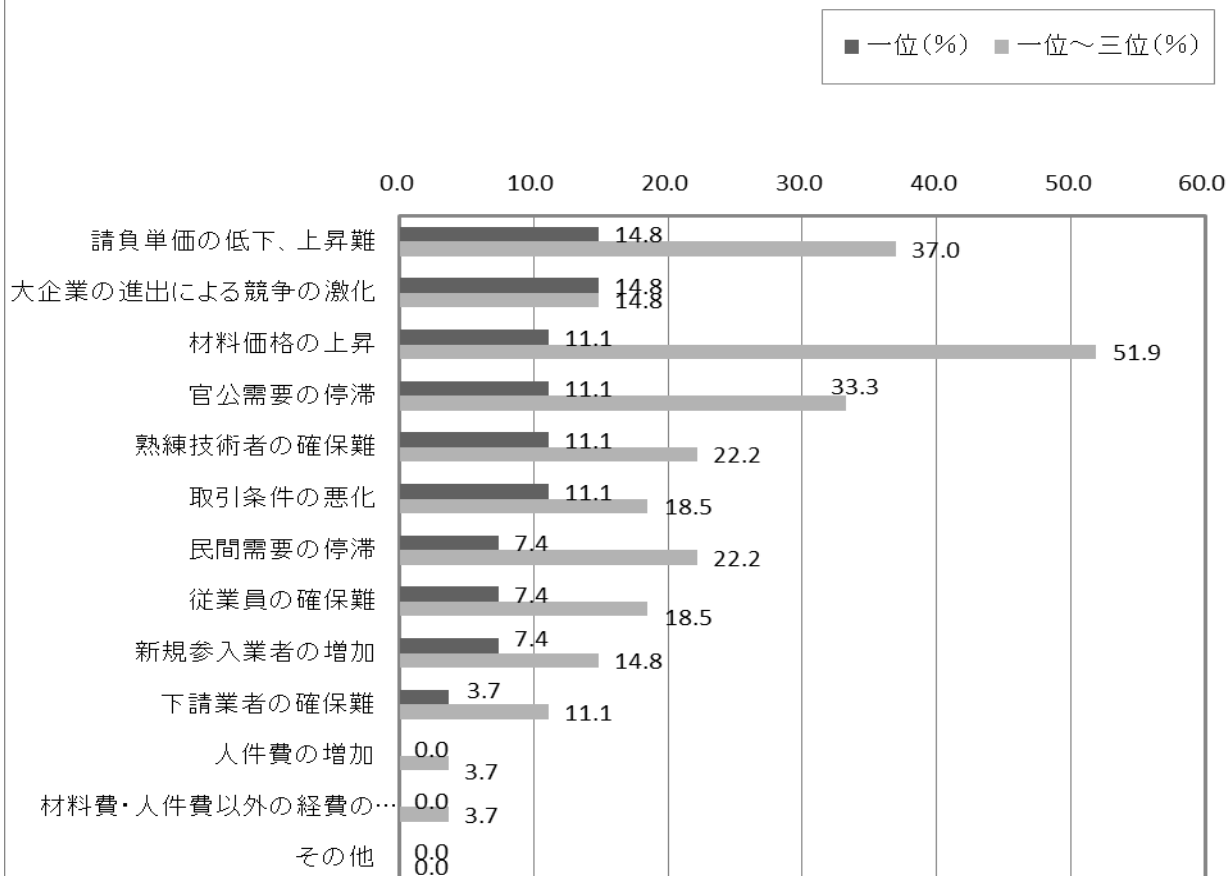
来期については、新規受注額が減少する見通しから、すべての項目について悪化すると予測しており、先行きが不透明な事業環境となっている。

新規設備投資については、1社が実施しており、車両・運搬具を導入。来期計画は0社となっている。

[図Ⅱ-3]建設業主要景況項目の推移 - 前年同期比DI-
















「図表Ⅱ-4」建設業 経営上の問題点の状況



3. 小売業の景況

“夏のボーナス、プレミアム商品券により、景況は引き続き改善”

	今期の景況	来期の見通し	
売上高			 :DI 値 +30～
採算			 :DI 値 +10～+30
資金繰り			 :DI 値 +10～-10
総合			 :DI 値 -10～-30
			 :DI 値 -30～

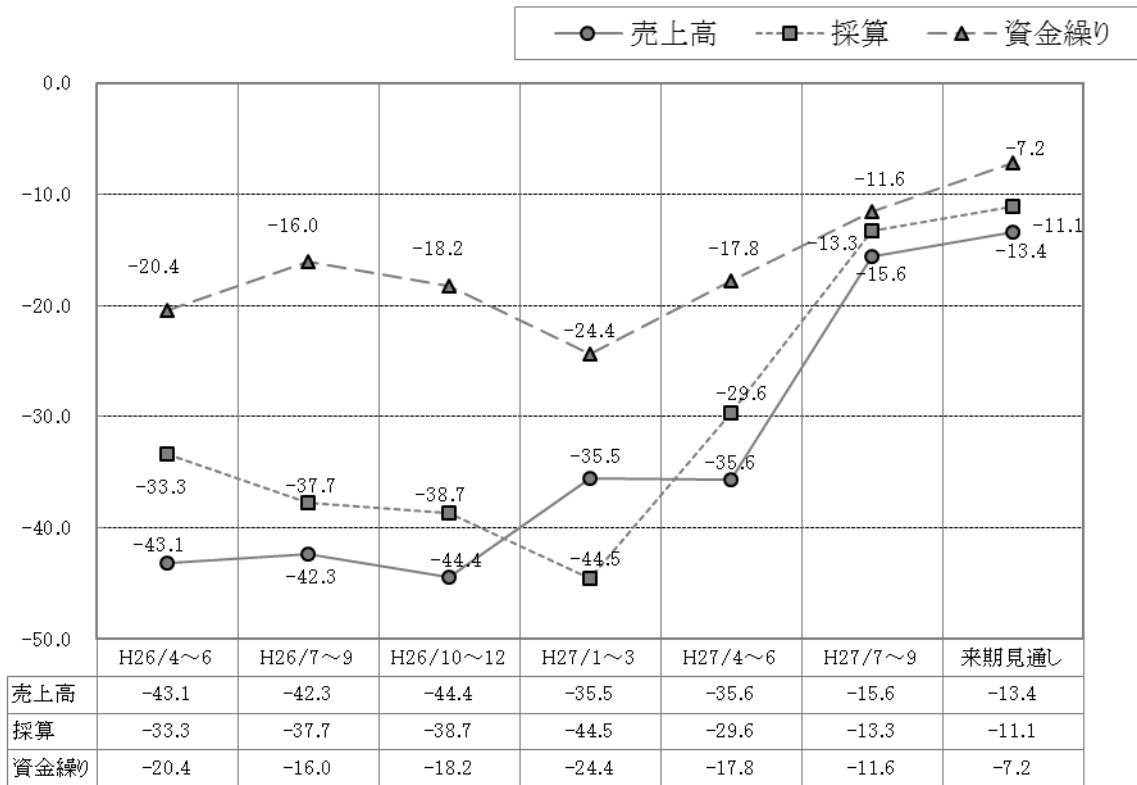
千葉県商工会地区における小売業の景況は、売上高DI値は-15.6で、前期(-35.6)よりも20ポイントマイナスが縮小。今期は、賞与支給額の増加やプレミアム商品券の影響もあり、消費マインドは改善傾向にある。競合等との競争環境は激化しているものの、採算DI値は-13.3で、前期(-29.6)から16.3ポイントマイナス幅が縮小、資金繰りDI値についても-11.6で前期(-17.8)から6.2ポイントマイナス幅を縮小している。

来期についても、売上高、採算、資金繰り全ての項目で改善する見通しであり、景況は回復の動きにある。

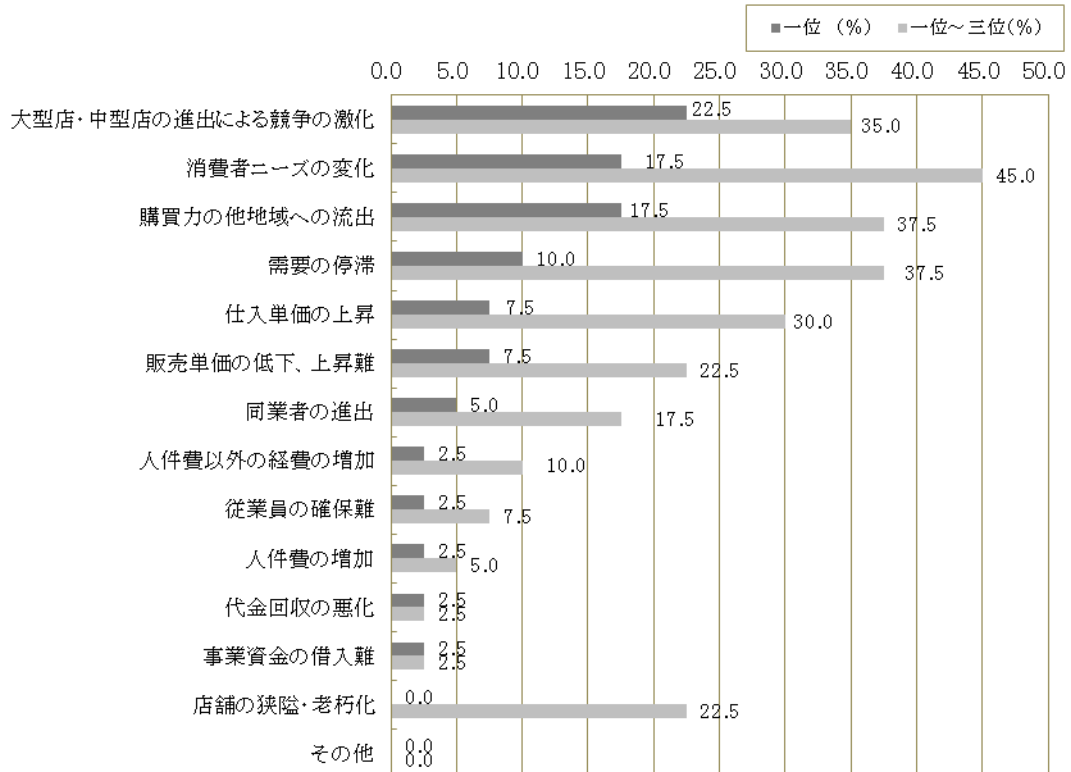
また、大型店・中型店の進出による競争の激化、購買力の他地域への流出、消費者ニーズの変化については、相変わらず多く事業者が問題と感じており、顧客の囲い込みや新規顧客の開拓が引き続き課題となっている。

新規設備投資については、7社が実施。店舗、販売設備、車両運搬具、付帯施設、OA機器を導入している。また、来期計画は3社で、店舗、車両・運搬具の導入を予定している。

[図II-5]小売業主要景況項目の推移 - 前年同期比DI-
















[図II-6]小売業 経営上の問題点の状況



4. サービス業の景況

“好材料は多いものの、回復は緩やか”

	今期の景況	来期の見通し	
売上高			 :DI 値 +30～
採算			 :DI 値 +10～+30
資金繰り			 :DI 値 +10～-10
総合			 :DI 値 -10～-30
			 :DI 値 -30～

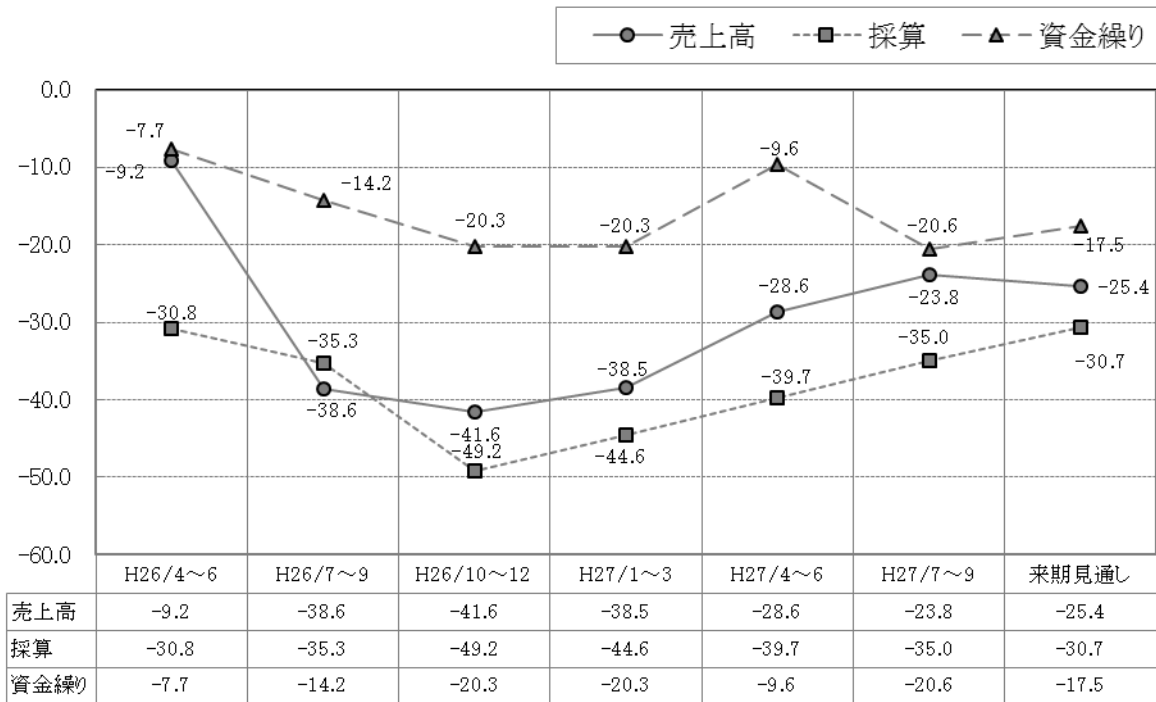
千葉県商工会地区におけるサービス業の景況は、小売業同様、夏のボーナスやプレミアム商品券、外国人観光客の増加などプラス要因が多いものの、前期に続き、客単価の減少傾向や材料等仕入単価の高騰によるコスト高もあり、売上高 DI 値については 4.8 ポイント（前期比）、採算 DI 値は 4.7 ポイント（前期比）のマイナス幅縮小とわずかな改善に止まっている。ただし、3 期連続で改善していることから、緩やかではあるが回復基調にあると言える。一方で資金繰り DI 値については、前期比で 11 ポイントマイナス幅が拡大している。

来期については、売上高 DI 値はやや悪化するが、ほぼ横ばいの見通しである。

一方で、需要の停滞を経営上の課題とする事業者は相変わらず多く、利用者ニーズの変化、利用料金の低下・上昇難、材料等の仕入単価の上昇を経営上の問題点とする事業者も多い。回復の兆しはあるものの、本格的な回復には、収益構造の見直しや消費者ニーズに対応したサービス開発等経営力向上への取組み、天候などの条件に左右されない取組みが必要である。

なお、新規設備投資については、5 社が実施。土地、建物、サービス、付帯施設を導入している。また、来期計画は 7 社で、建物、サービス、付帯施設等の導入を予定している。

[図Ⅱ-7] サービス業主要景況項目の推移 - 前年同期比DI -



[図Ⅱ-8] サービス業 経営上の問題点の状況

